プレス発表資料（Web 公開のお知らせ）

平成１８年７月２１日
独立行政法人防災科学技術研究所

沿岸災害危険度マップＷＥＢ公開

独立行政法人　防災科学技術研究所（理事長：岡田　義光）は、沿岸災害危険度マップを作成しました。インターネット（http://engan.bosai.go.jp/）にて本日公開します。

●初めに

2004 年台風 16 号による高松の浸水などに代表されるように、いままで安全と思われた地域に浸水被害が起こっています。浸水被害の危険性を推定するには、陸域と海域の標高を同じ基準で計測することが必要です。

沿岸災害危険度マップは最大満潮時の海面標高を陸域と同じ日本水準原点に準拠させて算出し、沿岸災害推定の基礎となるベースラインを分かりやすく示すために作成されました。

●本マップの特徴

沿岸災害危険度マップは、津波・高潮・高波・異常潮位などの沿岸災害に対する地域の脆弱性をわかりやすく住民に示す目的で作られました。

具体的には、

１）沿岸災害による浸水予測のベースラインとなる現在の標高０ｍを基準とした海岸線標高（最高水面）について、地域ごとに、海面変動、地殻変動傾向を考慮し 2050 年までの予測を行います。

２）影響を受ける人口、浸水面積、重要構造物の位置を示します。

３）過去に起こった沿岸災害事例を表示しています。

自分の住んでいる地域は現在どのような状況にあり、過去どんな災害が起こっているか、また、将来どのような危険性があるか WebGIS を用いて知ることが出来ます。

別添の図１は、各地域の海岸線標高の地域的分布を表しています。海岸線とは、最高水面と陸地との境界線のことであり、平均水面から理論的に計算された潮汐の最大値だけ上昇したときの海面と陸地の境界線です。高潮などが満潮時に起きるか、干潮時に起きるかで被害は大きく異なります。海岸線をベースラインとすることで最大被害のケースの想定を行うことが出来ます。

一方、日本はプレート境界に位置し地殻変動の大きな地域です。地殻が下降すれば、相対的に海岸線標高は上昇します。これらの要因による海岸線標高予測のために、過去 35 年間の検潮記録、測量記録を解析し各地域の平均水面の変動傾向、地殻変動の変動傾向を見積もり、2050 年までの予測を行っています。（別添：図２）

●本マップの意義

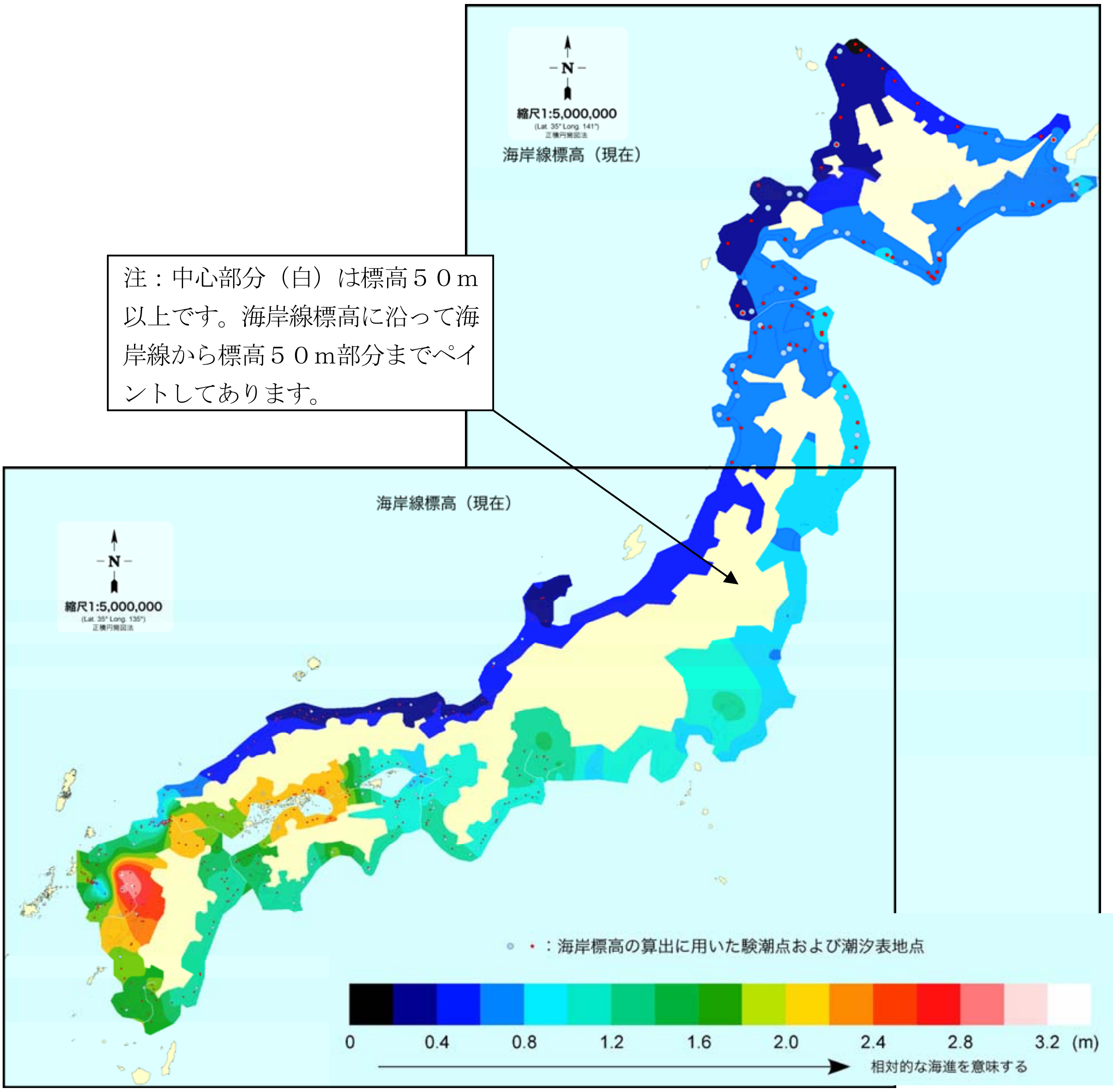
最近、国の内外を問わず沿岸災害が多発しています。沿岸災害のみならず全ての災害の危険性を推定するには、災害の原因の規模（台風の規模、地震の大きさ）と地域の脆弱性（同じ台風でも地域の標高の高低によって被害は異なる）の２つを考慮することが必要です。本マップは誰でも自分の住んでいる地域の脆弱性を知ることができ、避難対策、防災計画の立案、防災意識の向上を図ることが出来ます。一例として図３に高松の状況を示します。2004 年台風 16 号によって浸水した地域は本マップで海岸線から１ｍ高くなった地域とほぼ一致します。

本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

【本件に関する問い合わせ先】
独立行政法人防災科学技術研究所
水・土砂防災研究部　岩崎伸一
電　　話：029-855-4367

（連絡先）
独立行政法人防災科学技術研究所
企画部広報普及課成果普及係　菊地、山科
電　話：029-863-7783
ＦＡＸ：029-851-1622

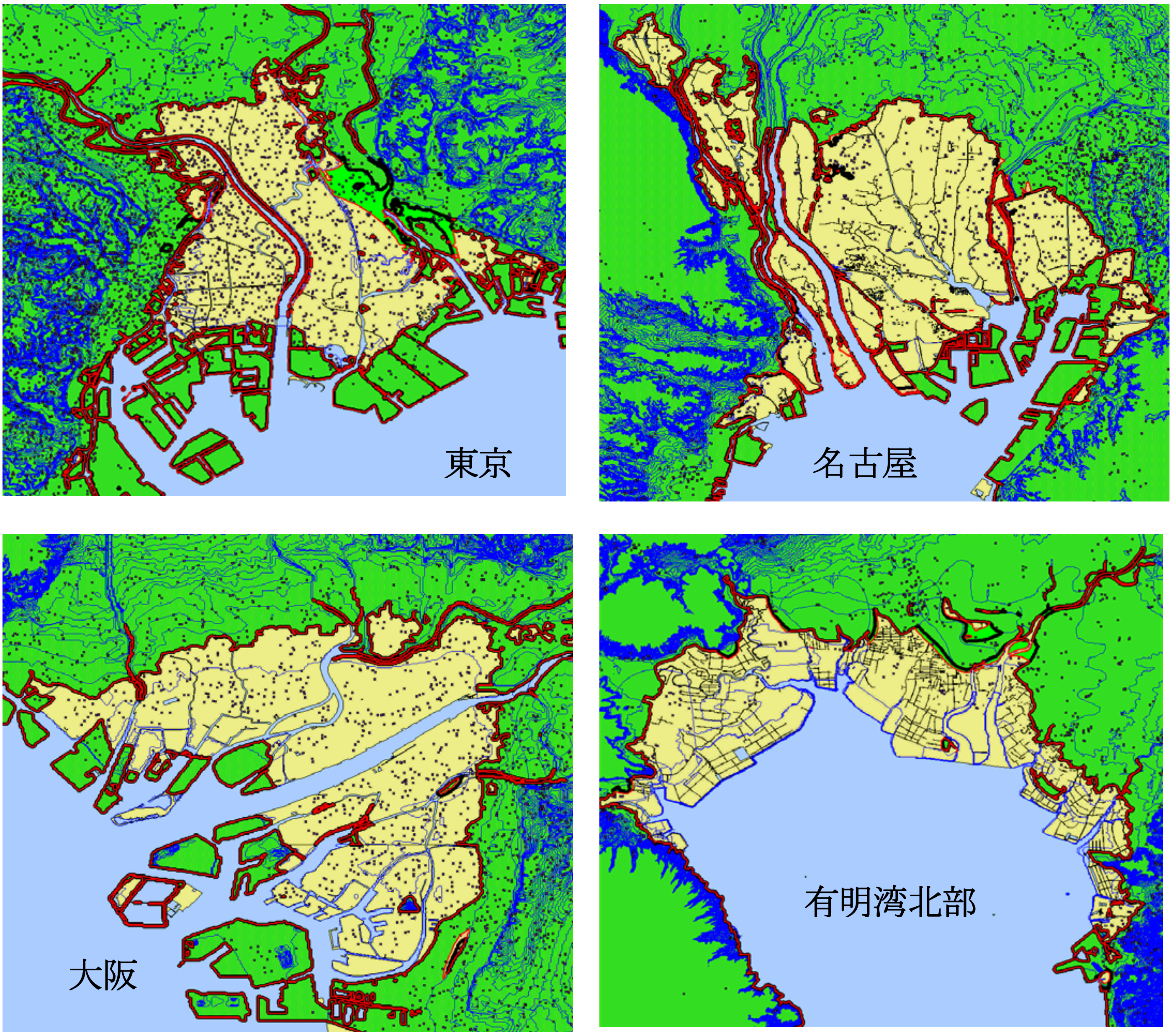
別添：図１



海岸線標高の地域的分布(現在)

青点、赤点：海岸線標高の算出に用いた検潮点（青）および潮汐表地点（赤）
解説：海岸線標高は各地の平均海面標高に潮汐の大きさを加えて算出しました。平均海面標高は、東京湾平均海面（T.P.）±20cmの範囲にあります。潮汐の大きさは、太平洋側の方が日本海側より大きく、特に水深の浅い瀬戸内海、有明湾などでは大きくなります。その結果、日本全体で見ると瀬戸内海,有明湾などは海岸線標高が2～3mにもなり、東京湾、伊勢湾、大阪湾などでも１m以上になります。

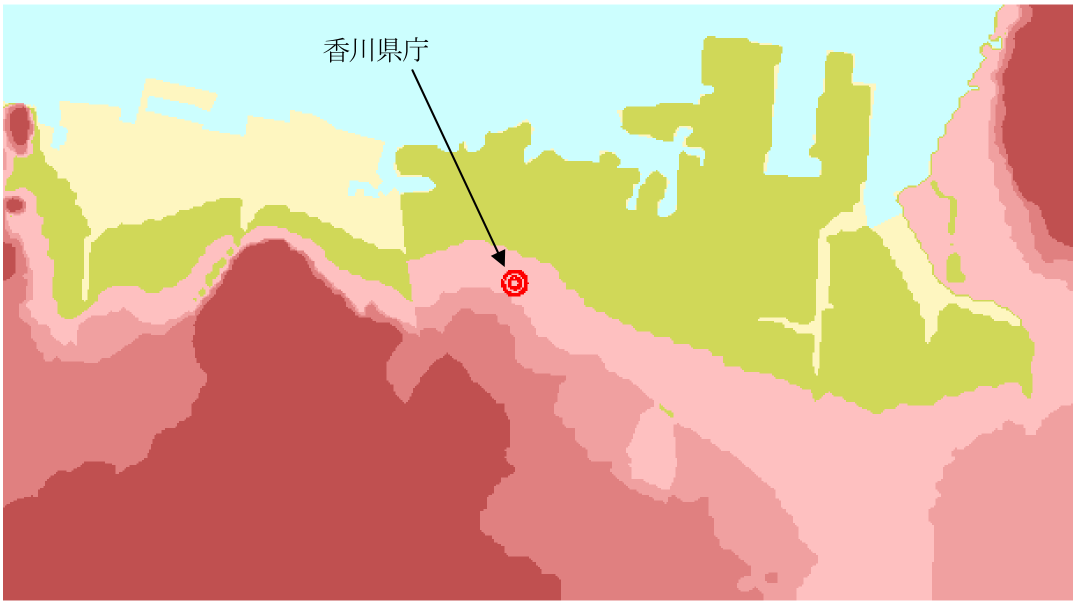
別添：図２

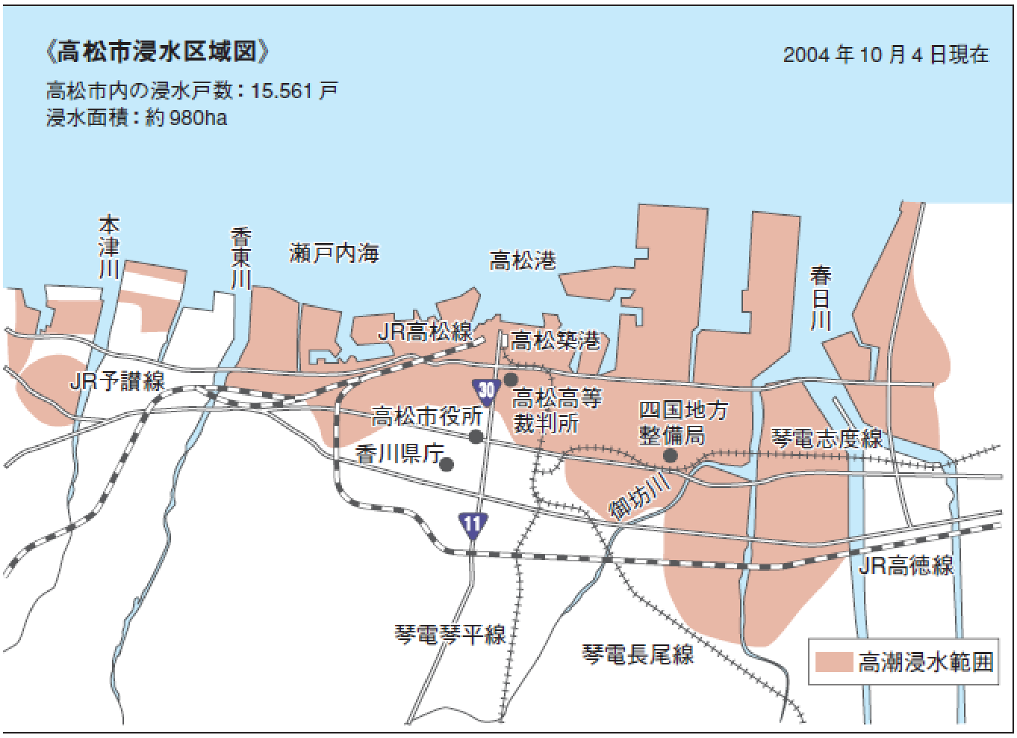


東京・名古屋・大阪・有明湾北部の海岸線
（現状及び２０５０年の予測値）

解説：特に影響が大きいと考えられる地域の海岸線を図示します。赤は現状の海岸線、黒は２０５０年の海岸線です。クリーム色で塗られた部分は防潮堤がなければすでに満潮時において海面下の地域にあることを示します。図中の黒点は公共施設の位置を示しています。特に河川の周辺は内陸深くまで進出しています。

別添：図３





▲高松市の高潮浸水区域図〔資料提供／四国地方整備局〕

解説（上図）：本マップで得られる高松市周辺の海岸線からの標高分布、クリーム色：海岸線以下
黄土色：海岸線からの標高1m、色の濃くなる順に海岸線から標高2,3,5,10m。

解説（下図）：2004年台風16号による浸水地域。浸水地域は海岸線から標高1mの地域とほぼ一致。